

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4170300380		
法人名	有限会社 きらく		
事業所名	グループホーム きらく		
所在地	佐賀県鳥栖市柚比町137番地2		
自己評価作成日	令和3年6月10日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和3年7月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

家族の負担が少しでも軽減できるように、利用金額設定を低めに設定している。  
 単独施設なので、怪我病気に対しては、特に注意をしている。  
 出来る限り、本人の希望を叶えて、充実した日々を送って頂けるように支援している。  
 家族とは定期的に連絡を取り、信頼関係の構築に力を入れている。  
 一期一会とし、ご縁を大切に、本人と家族が「きらくで良かった」と思ってもらえる事が、最終目標である。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

令和3年4月に以前の施設(弥生が丘)から新施設(柚比町)に転居して間もない、2ユニットの事業所である。施設の周りは、緑が多く落ち着いた雰囲気、近くにはストア等があり利便性が高い。平屋建ての室内は、新築の木の香りが残り、廊下には明るさを考慮して天窓を配置するなど、以前の施設を参考にして、随所に工夫を凝らした設計となっている。転居の際は、以前の居室の様子を写真に撮り、新しい居室に写真通り家具などを配置することで、入居者の不安を和らげる工夫を行うなど、細やかな気配りをしている。地区の宮掃除などに参加することで、地域との関係性を深める努力をしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	I	II		I	II
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰ)	自己評価(Ⅱ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設玄関、事務所、キッチンと、常に職員の目の届く所に提示し、新しい職員には、口頭で説明をしている。	施設玄関、事務所、キッチンと、常に職員の目の届く所に提示し、新しい職員には、口頭で説明をしている。	理念は、玄関、事務所等に掲示されている。開所当初から同じ理念を継続し、カンファレンス等で理念について理解を深め、実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	4月に移転したこともあり、区長、民生委員、町内市議会議員とのコミュニケーションは取る事が出来た。	4月に移転したこともあり、区長、民生委員、町内市議会議員とのコミュニケーションは取る事が出来た。	転居に伴い、地域関係者とコミュニケーションを取りながら、「こども110番」運動に協力するなど、新しい地域との関係を構築するために取り組みを進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新天地での地域交流はこれからである。新型コロナウイルスの関係もあり、交流の機会が少ないので、少しずつ対応出来るようにしたい。「こども110番」の継続をしている。	新天地での地域交流はこれからである。新型コロナウイルスの関係もあり、交流の機会が少ないので、少しずつ対応出来るようにしたい。「こども110番」の継続をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前お世話になっていた民生委員とも、交流を継続しており、新天地での区長、民生委員と挨拶も兼ねて、施設の概要と理解を説明している。	以前お世話になっていた民生委員とも、交流を継続しており、新天地での区長、民生委員と挨拶も兼ねて、施設の概要と理解を説明している。	家族、地域、行政の関係者等が参加しやすい曜日を調整しながら、対面で会議を実施している。また、議事録の整備を行い、不参加者へ会議報告を行うよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	移転に伴い、市役所、介護保険課とも、密に話し合いを重ねながら、進めてきたので、細かい話も踏まえた上で、助言や協力を沢山頂けた。	移転に伴い、市役所、介護保険課とも、密に話し合いを重ねながら、進めてきたので、細かい話も踏まえた上で、助言や協力を沢山頂けた。	市の担当者とは、転居した経緯もあり、処遇改善や加算等について、書類の記載方法等のアドバイスを受けたり、顔の見える関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は、全ての入口を開錠している。身体拘束をしてはいけない旨、何が身体拘束になるのかを、全職員に定期的に周知している。	夜間帯以外は、全ての入口を開錠している。身体拘束をしてはいけない旨、何が身体拘束になるのかを、全職員に定期的に周知している。	身体拘束に関するマニュアルや指針を整備している。月1回のカンファレンスで地域包括支援センターからの資料等を利用して研修を行い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待となるのかを、施設内に提示し、言葉遣いにも、注意をしている。年齢や職位に関係なく、発見した際は、即時注意をし、何がダメだったかを職員全体に周知する。	何が虐待となるのかを、施設内に提示し、言葉遣いにも、注意をしている。年齢や職位に関係なく、発見した際は、即時注意をし、何がダメだったかを職員全体に周知する。		

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰ)	自己評価(Ⅱ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者に成年後見制度を利用している方がいるので、成年後見制度の必要性を職員カンファレンスで、定期的に周知し、説明と理解できるようにしている。	利用者に成年後見制度を利用している方がいるので、成年後見制度の必要性を職員カンファレンスで、定期的に周知し、説明と理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、時間をかけて、丁寧に説明し、項目ごとに、不明点が無いかの確認をしながら話を進めていく。 解約時には、解約による家族や本人負担を説明し、合意を頂いた上で解約とする。	契約時に、時間をかけて、丁寧に説明し、項目ごとに、不明点が無いかの確認をしながら話を進めていく。 解約時には、解約による家族や本人負担を説明し、合意を頂いた上で解約とする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族と連絡を取り、施設での要望や気になる事を伺っている。 改善の必要がある場合は、職員に周知し改善に努めている。	新型コロナウイルスの影響で、面会に制限はあるが、家族とは定期的に本人の事、伝達事項を電話連絡し、全利用者及び家族の要望や意見の窓口を一本化しているため、要望等があれば、すぐに説明対応を行う。	面会の際や定期的な電話で、家族の意見や希望を聞き取るように心掛けている。家族からの希望等については、なるべく実践するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回カンファレンスを行い、職員同士の気づいた事等を話し合っている。 改善点があれば、対策を議論し、次回のカンファレンスの際に評価を行っている。	職員とはコミュニケーションにて、気づきや要望、1人1人の考え方を考慮し、時には、個人面談にて、問題を解決出来るように双方で話し合うようにしている。	ミーティングで、職員の要望等を聞き取るようにしている。個別に話を聞くことも行い、職員が悩みや不安を抱え込まないようにしている。出された意見は、運営に反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の動きや考え方を尊重し、決めつける業務ではなく、臨機応変に対応するようにしている。 希望や不満があれば、直接話せるように、常時現場でサポートをしている。	職員の動きや考え方を尊重し、決めつける業務ではなく、臨機応変に対応するようにしている。 希望や不満があれば、直接話せるように、常時現場でサポートをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会が少ないが、受講希望者は全面的に後押しする。 何でもあきらめず、出来る事を増やすよう、職員自身が知恵や工夫を出し合い実践してもらう。	研修の機会が少ないが、受講希望者は全面的に後押しする。 何でもあきらめず、出来る事を増やすよう、職員自身が知恵や工夫を出し合い実践してもらう。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前より交流のある施設管理者に、定期的に連絡をして、お互いにわからない事や、協力出来る事を共有している。	以前より交流のある施設管理者に、定期的に連絡をして、お互いにわからない事や、協力出来る事を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰ)	自己評価(Ⅱ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や緊張を取り除き、安心して頂けるよう、要望や思いを傾聴し、信頼のおける関係作りに努めている。	入居初期段階では、利用者に信頼をして頂けるように、コミュニケーションを取り、孤立しないよう、要望や気持ちを話してくるよう、寄り添っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の在宅介護での話や生活スタイルを聞き、気になる事等を何でも言って頂けるような関係作りを意識している。	家族の不安は尽きないので、1つ1つ不安要素を共有し解決できるように、家族が希望する支援を、迅速に取り入れ、都度家族に納得を頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞き入れて、出来る限り、要望に近づける支援をいち早く発見し、実行出来るように心がけている。	本人と家族の要望を聞き入れて、出来る限り、要望に近づける支援をいち早く発見し、実行出来るように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る手伝いはして頂き、利用者と職員ではなく、共に生活する者として、利用者の希望や要望、不満を相談して頂けるような関係作りを意識している。	出来る手伝いはして頂き、利用者と職員ではなく、共に生活する者として、利用者の希望や要望、不満を相談して頂けるような関係作りを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にかかわらず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	緊急事態宣言が出たとしても、面会謝絶はせずに、感染予防対策をしたうえで、面会して頂く。どんな薬よりも、家族と会う事が、1番の特効薬と思っている。	緊急事態宣言が出たとしても、面会謝絶はせずに、感染予防対策をしたうえで、面会して頂く。どんな薬よりも、家族と会う事が、1番の特効薬と思っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や、親戚、近所の方なども、面会に来て頂き、本人の記憶となり、喜ばれる取り組みとして、継続をしている。	友人や、親戚、近所の方なども、面会に来て頂き、本人の記憶となり、喜ばれる取り組みとして、継続をしている。	ドライブ等で馴染みの場所に行ったり、定期的に友人から連絡がある方もおられ、馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者との話だけではなく、職員が仲介に入り、皆と話が出来るように、1人でも多くの友人を作っていたり、支援している。	仲の良い利用者との話だけではなく、職員が仲介に入り、皆と話が出来るように、1人でも多くの友人を作っていたり、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰ)	自己評価(Ⅱ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や契約終了となっても、家族と連絡が取れるようにしており、自分から近況を確認したり、悩んでる事は無いか、と連絡をする事もある。	退居や契約終了となっても、家族と連絡が取れるようにしており、自分から近況を確認したり、悩んでる事は無いか、と連絡をする事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期段階で、本人からの信頼関係を築けるように接し、本人の考え方や思いを早くに聞き出せるよう密に接している。まず、自分だとして欲しいかを考えるようにしている。	初期段階で、本人からの信頼関係を築けるように接し、本人の考え方や思いを早くに聞き出せるよう密に接している。まず、自分だとして欲しいかを考えるようにしている。	入居前から本人との信頼関係を築くように工夫し、入居時の不安を和らげるようにしている。意思の表出が困難な場合は、本人の表情を見ながら、意思を確認するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居初期段階で、要望や生活歴、特技や前職を聞き出し、家族からの情報も踏まえて、本人が充実した生活が送れるように努めている。	入居初期段階で、要望や生活歴、特技や前職を聞き出し、家族からの情報も踏まえて、本人が充実した生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホールなどの共有スペースで生活して頂くように支援しているが、一人ひとりの今までの生活スタイル、過ごし方等を尊重し、自室で過ごす時間も、様子を見ながら提供している。	退屈する事が無いように、出来る事や、手伝いをして頂き、ADLが低下しないように努めている。1日のリズムを把握し、その人に合った生活を優先する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の過ごし方を確認し、家族の要望も取り入れながら現状に合う介護計画を提案している。	管理者と職員により、本人と家族の要望や希望を確認し、話し合いの上、出来る事を取り入れて、家族に報告し、双方が満足して頂けるようにしている。	介護計画は整備され、サービス実行確認表をチェックし、介護の中で活かせるようにしている。計画作成については、本人、家族の意見をなるべく取り入れるよう努めているが、家族との話し合いは不十分である。	チームで作る介護計画を基本としている。しかし、コロナ禍の中で家族との話し合いが困難な場合もあり、事前に、家族の意見を聞くような取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は職員皆で記入し、職員による気づきは、記録だけでなく、伝言ノートや伝達により、情報の共有と対応に差が出ないように取り組み、介護計画に反映が出来るようにしている。	介護記録は職員皆で記入し、職員による気づきは、記録だけでなく、伝言ノートや伝達により、情報の共有と対応に差が出ないように取り組み、介護計画に反映が出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況の変化に応じ、臨機応変に業務などを調整し、時間に余裕を持つようにしている。	本人の状態や能力、家族の希望や要望も取り入れて、出来る事を職員間で考慮して、楽しい日々を過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰ)	自己評価(Ⅱ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長く健康に生きて頂けることが、地域や若者への刺激となる事を共感し、怪我や病気をさせないように注意をしながら、本人らしく過ごして頂けるように支援している。	長く健康に生きて頂けることが、地域や若者への刺激となる事を共感し、怪我や病気をさせないように注意をしながら、本人らしく過ごして頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は選択できるので、本人と家族が、安心して診て頂ける主治医を選択し、事業所からは主治医に近況報告と気になる事を伝えて、本人の体調管理に努めている。	主治医は選択できるので、本人と家族が、安心して診て頂ける主治医を選択し、事業所からは主治医に近況報告と気になる事を伝えて、本人の体調管理に努めている。	かかりつけ医は、本人、家族の希望で選択できる。受診については、家族の協力を得ているが、難しい場合は、事業所で対応し、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師、准看護師を配置しており、本人の気になる事や、主治医の診療内容を看護師と共有し、本人にわからない事を、代弁出来るように努めている。	正看護師、准看護師を配置しており、本人の気になる事や、主治医の診療内容を看護師と共有し、本人にわからない事を、代弁出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携は、都度行っている。利用者の入院時は、情報提供や経過確認をし、当施設に戻れるように家族と病院に伝え、円滑に対応出来るようにしている。定期的に病院に面会に行き、状況の確認を行っている。	医療機関との連携は、都度行っている。利用者の入院時は、情報提供や経過確認をし、当施設に戻れるように家族と病院に伝え、円滑に対応出来るようにしている。定期的に病院に面会に行き、状況の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化と看取りの説明を行うが、いざその時が近くなった時に、再度家族に確認をし、同意を得れば、施設での看取りを進めていく。出来るだけ家族には会って頂けるように都度、状況報告を行う。	入居時に重度化と看取りの説明を行うが、いざその時が近くなった時に、再度家族に確認をし、同意を得れば、施設での看取りを進めていく。出来るだけ家族には会って頂けるように都度、状況報告を行う。	入居時に重度化と看取りの説明を行い、必要時には看取りを行っている。その際は、家族の意向を聞きながら、職員へもケアのあり方について周知している。看取りの後は振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡体制や、事故発生時の初期対応を記載し、職員の目の届く所に貼っている。いつ事故が起きても対応が出来るように、職員に対応を周知している。	緊急連絡体制や、事故発生時の初期対応を記載し、職員の目の届く所に貼っている。いつ事故が起きても対応が出来るように、職員に対応を周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	移転により、地域の避難場所に変更が生じたが、職員への周知と地域住民への理解を少しずつ頂けるように対応している。避難場所に関しては詳細を貼りだしている。	移転により、地域の避難場所に変更が生じたが、職員への周知と地域住民への理解を少しずつ頂けるように対応している。避難場所に関しては詳細を貼りだしている。	以前は定期的実施していたが、転居してからは実施していない。今年は8月と12月に、夜間想定での訓練を予定している。運営推進会議等で地域の方にも協力を得ていく予定である。	地域の方の協力体制の構築や非常口の整理、地震対策として、高いところの物が落下しないような工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰ)	自己評価(Ⅱ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、敬意を表し、傷つける事が無いように、言葉の全てに責任を持ち、失礼な事が無いように細心の注意をしている。	人生の先輩として、敬意を表し、傷つける事が無いように、言葉の全てに責任を持ち、失礼な事が無いように細心の注意をしている。	入浴の際は本人の意向を確認し、同性介護を行っている。排泄の失敗時には特に言葉かけに注意し、人格を尊重した支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や要望をいち早く取り入れる為に、信頼関係の構築を目指して、なんでも言える、言うと解決してくれるという関係を念頭に置き、自己主張出来るように支援している。	希望や要望をいち早く取り入れる為に、信頼関係の構築を目指して、なんでも言える、言うと解決してくれるという関係を念頭に置き、自己主張出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気分も日々変わってくる為、どのように過ごしたいか確認し、柔軟に対応するようにしている。	個々の能力や生活スタイルを理解し、本人のストレスとならないように、自分のペースで過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、利用者の希望と一緒に選びながら決めて頂いている。 普段身に付けていた小物なども、安全面や紛失等に注意して身に付けて頂いている。	更衣時に、本人の希望を尊重し、定期的に、私服の確認をする。本人の希望を反映した、衣替えを行い、不足分は家族にて補填して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める際は、利用者にも確認し、好みのメニューを出来るだけ取り入れるようにしている。片付けも利用者のQOLに合わせて、職員と一緒にやっている。	献立作成への協力と配膳、皿洗い、皿拭きへの協力を促し、好みに沿える献立を考えて、食事への関心を持って頂いている。	入居者の希望を聞き、メニューを職員と一緒に考え、買い物に同行してもらうこともある。また、行事食も取り入れ、食事が楽しみとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量の確認を行い、水分の摂取不足を感じれば、声掛けやジュースなどで、しっかりと摂取出来るように努めている。	食事量と水分量の確認を行い、水分の摂取不足を感じれば、声掛けやジュースなどで、しっかりと摂取出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは本人が出来る所までして頂き、足りない所を職員がカバーするようにしている。	食後の口腔ケアは本人が出来る所までして頂き、足りない所を職員がカバーするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰ)	自己評価(Ⅱ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けにてトイレ誘導を行い、各個人での排泄パターンに迅速に対応出来るように、早めの行動と自分で出来る事はして頂けるように対応している。失禁の心配が無い方はおむつ等を使用しない。	定期的な声掛けにてトイレ誘導を行い、各個人での排泄パターンに迅速に対応出来るように、早めの行動と自分で出来る事はして頂けるように対応している。失禁の心配が無い方はおむつ等を使用しない。	一人ひとりの排泄のパターンを、排泄チェック表で確認しながら、日中はトイレに誘導し、排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた排便調整を行っている。下剤の使用や乳製品などを提供し、自然排便に繋がるように努めている。	日々食事量と排便の有無を確認し、必要であれば本人へ確認の上、下剤を使用するが、定期的な自然排便が出来るように、運動や体操で腸の動きに繋がるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日に希望者が全員入浴できるように支援をしている。入浴日以外でも、希望者や必要とあれば、入浴を実施し、定期的な清潔保持を意識している。	入浴日に希望者が全員入浴できるように支援をしている。入浴日以外でも、希望者や必要とあれば、入浴を実施し、定期的な清潔保持を意識している。	週4回午前中の中の入浴を基本としている。拒否する方は、別のタイミングで入浴に誘ったり、清拭に変更する等、入居者の状態に合わせて、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて休息の希望があれば対応している。また、居室になじみの物を取り入れて、安心できる環境の中で、入眠出来るように支援している。	夜間にしっかり寝て頂けるように、日中は出来るだけ覚醒を促しているが、本人の体調や、血圧などを考慮し、必要であれば、軽く休息出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や追加があれば、介護記録に細かく記載する。本人の状態に注意をして、本人に変化があれば、主治医に伝達して、予期せぬ兆候も見逃さないように、細かく確認をしている。薬は服用前に2重確認して渡している。	薬の変更や追加があれば、介護記録に細かく記載する。本人の状態に注意をして、本人に変化があれば、主治医に伝達して、予期せぬ兆候も見逃さないように、細かく確認をしている。薬は服用前に2重確認して渡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝い等を通じて、本人が自信を損なわないように取り組んでいる。また、職員同行で買い物や散歩を行い、本人にとっての楽しみが出来るように支援している。	個々の好む手伝いを模索して、出来る喜びと、本人の必要性を感じて頂き、継続して、出来るように、新しい事にチャレンジ出来るように、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの関係で、外出レクリエーションは乏しい。外部への買い物は職員と同伴で、行くことも多い。協力が得られる家族には、定期的に外出のお願いをしているが、今は、家族にも感染等で迷惑を掛けないようにと自粛気味である。	コロナの関係で、外出レクリエーションは乏しい。外部への買い物は職員と同伴で、行くことも多い。協力が得られる家族には、定期的に外出のお願いをしているが、今は、家族にも感染等で迷惑を掛けないようにと自粛気味である。	コロナ禍の為、遠出ができなくなったが、職員と買い物に出かけたり、施設の周辺を回ったりすることで、外出の機会の確保に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰ)	自己評価(Ⅱ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族の同意のもと本人管理して頂いている。金銭トラブルに発展しないように注意し対応している。使う場合は、職員が同行し確認するようにしている。	本人が持つことで、安心される。しかし、お金での揉め事が無いように、家族へ説明して、持っても少額で、買い物は預り金を優先して使うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方も多くなってきた。可能な範囲で家族への連絡の補助に対応をしている。施設より家族へ連絡をして、本人とスピーカーで会話出来るような支援もしている。	携帯電話を持参されている方も多くなってきた。可能な範囲で家族への連絡の補助に対応をしている。施設より家族へ連絡をして、本人とスピーカーで会話出来るような支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物や貼絵、行事の写真を提示し季節感を取り入れるようにしている。共用の空間には余計な物は配置せずに、落ち着いた空間を作るようにしている。	利用者の希望を聞き入れた、家具の配置で全ての利用者の希望になるように心掛けている。居室は家族と本人とで家具の配置を決めて頂き、自宅で使用していた物を持参して頂くようにしている。	共有スペースは明るく清潔に保たれている。各出入り口のドアは、ゆっくり、静かに締まるドアを採用し、大きな音を立てないように配慮している。柱のところがた部分にはクッション材を張るなど、安全に生活できるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	孤立する事の無いようにレクリエーションへの参加を促したり、職員が積極的にコミュニケーションを取るようにしている。	ホールでの席や場所は、利用者主体で決めている。皆とコミュニケーションを取れるように、1人でも多く友人が出来るようにと、職員が間に入るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって思い入れのある品を居室に取り入れるようにしている。自宅での生活の雰囲気や再現できるような環境作りに取り組んでいる。	自宅で使用していた物を持参して頂き、自分の部屋と認識して頂けるように、家族と確認をしながら、部屋づくりを行っている。夜間不眠状態が続くと、本人確認の上で、枕やベッドの位置を変えるなど、対応している。	居室への持ち込みについては、基本的に自由にしており、家具の配置についても本人、家族に決めてもらって、本人が居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は安全に過ごせるよう、手摺りなどを設置している。日々の生活の中で、職員が気づいた危険な箇所があれば、対応策を話し合い、自立した生活を支援している。	玄関を広く、バリアフリーとし、外部のスロープと広さにもこだわりを持っている。施設内を1周出来るような作りをしており、歩行訓練も出来る。手摺り使用にて歩行維持が出来るようにしている。		